YAMAHA

ターンテーブル

GT-5000

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機の特長

本機は、アナログレコードを再生するターンテーブルです。

- **振動抑制に優れた巨大な木質系キャビネット**
- **2 重構造の大径重量級プラッター**
- **24 極 2 相 AC シンクロナスモーターによるベルトドライブ方式**
- **優れた剛性と軽さを兼ね備えたピュアストレート・トーンアーム**
- **新型特製レッグ**
- **カートリッジからスピーカーまでのフルバランス伝送を可能とする XLR バランス出力端子**

ご使用になる前に

本説明書について

本説明書では、本機をお使いになる方のための設置や操作方法を説明しています。

本説明書をお読みになるときは、以下にご注意ください。

- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書と「安全上のご注意」をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 本製品には保証書を別途添付しています。保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。
- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本説明書に掲載されているイラストは、すべて説明のためのものです。
- 本文で使用されているマーク

マーク	説明
警告	死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される内容です。
注意	傷害を負う可能性が想定される内容です。
注意	製品の故障、損傷や誤動作を防ぐため、お守りいただく内容です。
メモ	知っておくと便利な補足情報です。

目　次

本機の特長 3

ご使用になる前に 4

本説明書について 4

付属品を確認する 6

各部の名称 8

準備 11

設置する. 11

組み立てる 12

本体の組み立て. 12

カートリッジの取り付け. 14

接続する. 15

調整する. 17

針圧の調整. 17

トーンアームの高さ調整. 18

電源をオンにする 19

演奏 20

演奏を開始する 20

演奏を中断する. 21

演奏を終了する. 21

必要なとき 22

回転数を確認する 22

お手入れする 22

ベルトを交換する 23

故障かな？と思ったら 24

付録 26

主な仕様. 26

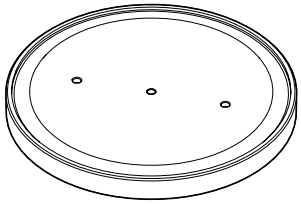
付属品を確認する

すべて揃っていることをご確認ください。

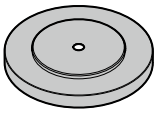
メモ

梱包箱などの包装材料は保管してください。転居などで本機を運ぶときに必要となります。
再梱包の方法は、同梱の「補足情報」をご覧ください。

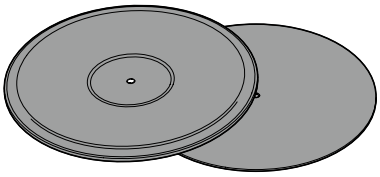
- ターンテーブル× 1



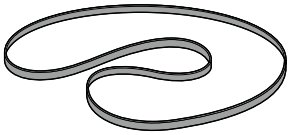
- インナーターンテーブル× 1



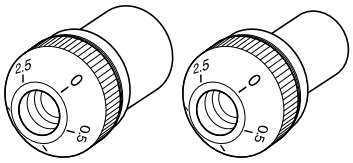
- ターンテーブルシート× 2



- ベルト× 1

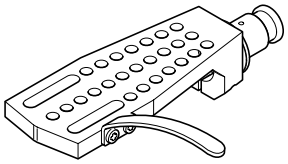


- カウンターウェイト× 2

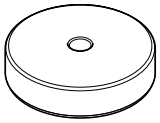


大　　小

- ヘッドシェル× 1



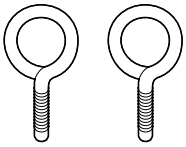
- EP アダプター× 1



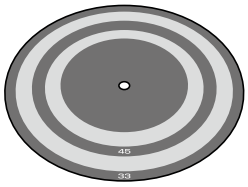
- ノブカバー× 1



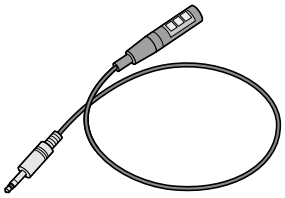
- ターンテーブル取り付けハンドル× 2



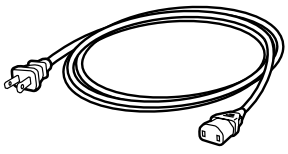
- ストロボスコープ× 1



- ストロボライト× 1



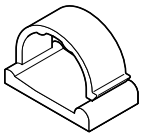
- 電源コード× 1



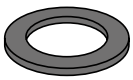
- **六角レンチ（2.5mm）× 1**
  ※トーンアーム高さ調整用



- **ケーブル押さえ× 1**
  ※直接フォノケーブルをトーンアームに接続する場合に使用してください。



- **ワッシャー× 1**
  ※ヘッドシェル用



- **取扱説明書（本書）**
- **安全上のご注意**
- **補足情報**

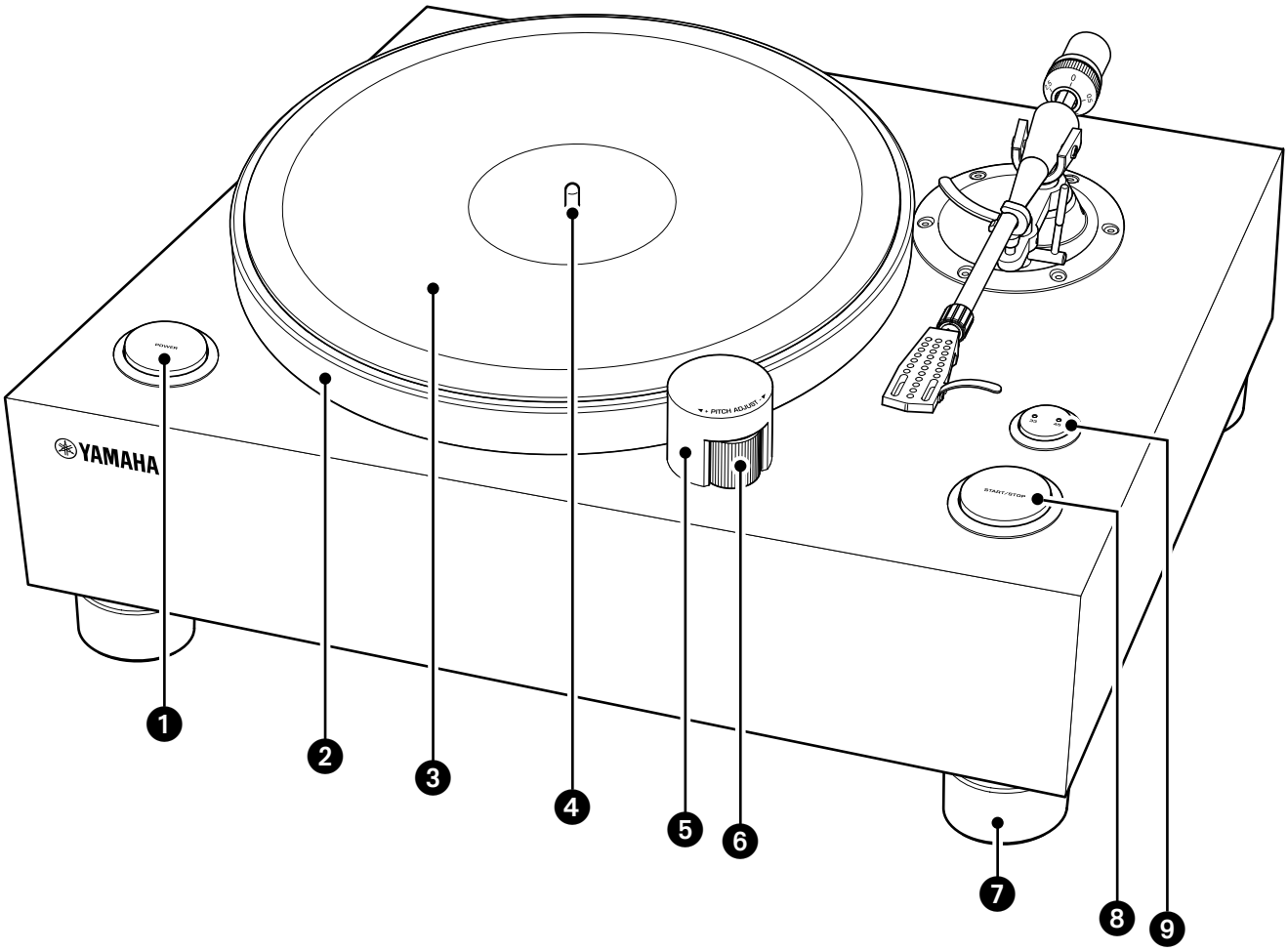
> ⚠ **注意 【誤飲に注意】**
> 小さな付属品を誤ってお子様が飲み込むおそれがありますのでご注意ください。

以下のものをご用意ください。

- **カートリッジ**
- **XLR バランスケーブル** ※ バランス接続する場合
- **ステレオピンケーブル** ※ アンバランス接続する場合

各部の名称

本体上面



❶ POWER（パワー）（電源）ボタン （⇨ 19 ページ）

❷ ターンテーブル （⇨ 13 ページ）

❸ ターンテーブルシート （⇨ 13 ページ）

❹ センタースピンドル （⇨ 13 ページ）

❺ ノブカバー （⇨ 13 ページ）

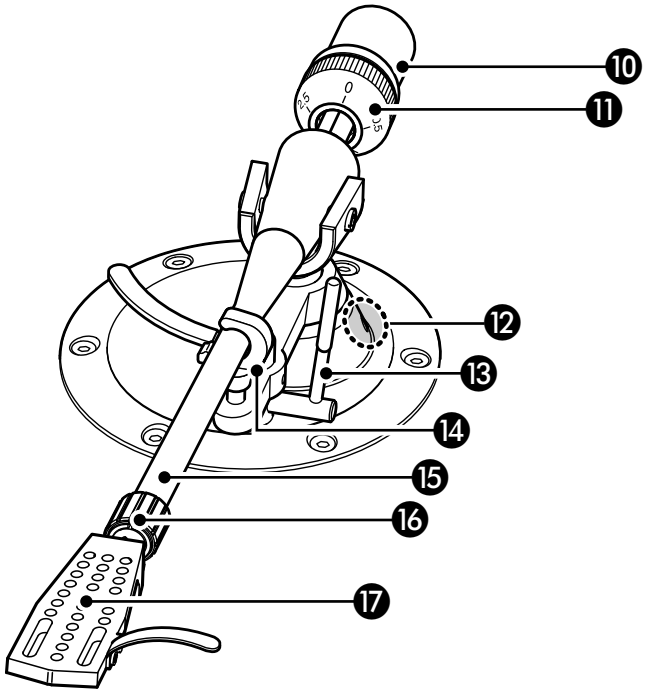
❻ PITCH（ピッチ） ADJUST（アジャスト）（回転数微調整）ノブ
（⇨ 13、22 ページ）

❼ レッグ

❽ START（スタート）/STOP（ストップ）（回転 / 停止）ボタン
（⇨ 20 ページ）

❾ 回転数切替ボタン （⇨ 20 ページ）
回転数インジケーター （⇨ 20 ページ）

トーンアーム部



⑩ カウンターウェイト （⇨ 13 ページ）

⑪ カウンターリング （⇨ 17 ページ）

⑫ 高さ調整ネジ （⇨ 18 ページ）

⑬ リフトレバー （⇨ 20 ページ）

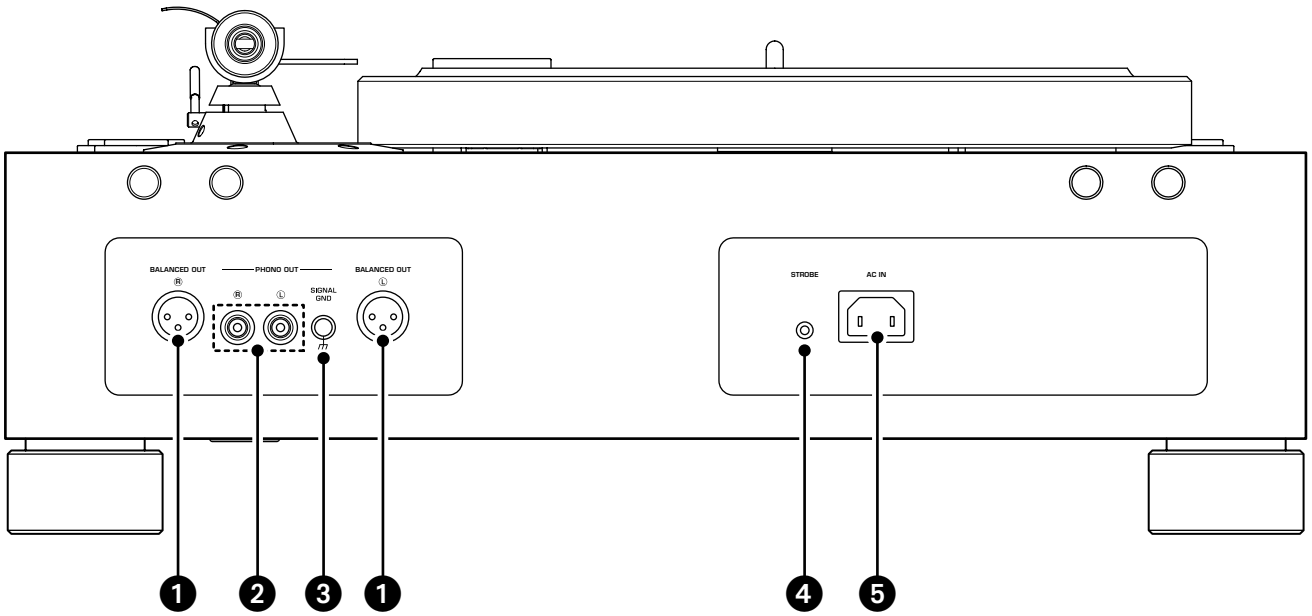
⑭ アームレスト （⇨ 17 ページ）

⑮ トーンアーム （⇨ 13 ページ）

⑯ ロックナット （⇨ 14 ページ）

⑰ ヘッドシェル （⇨ 14 ページ）

本体背面



❶ BALANCED OUT（バランス出力）端子 （⇨ 15 ページ）

❷ PHONO OUT（フォノ出力）端子 （⇨ 16 ページ）

❸ SIGNAL GND（アース）端子 （⇨ 16 ページ）

❹ STROBE 端子 （⇨ 22 ページ）

❺ AC IN 端子 （⇨ 15、16 ページ）

準備

設置する

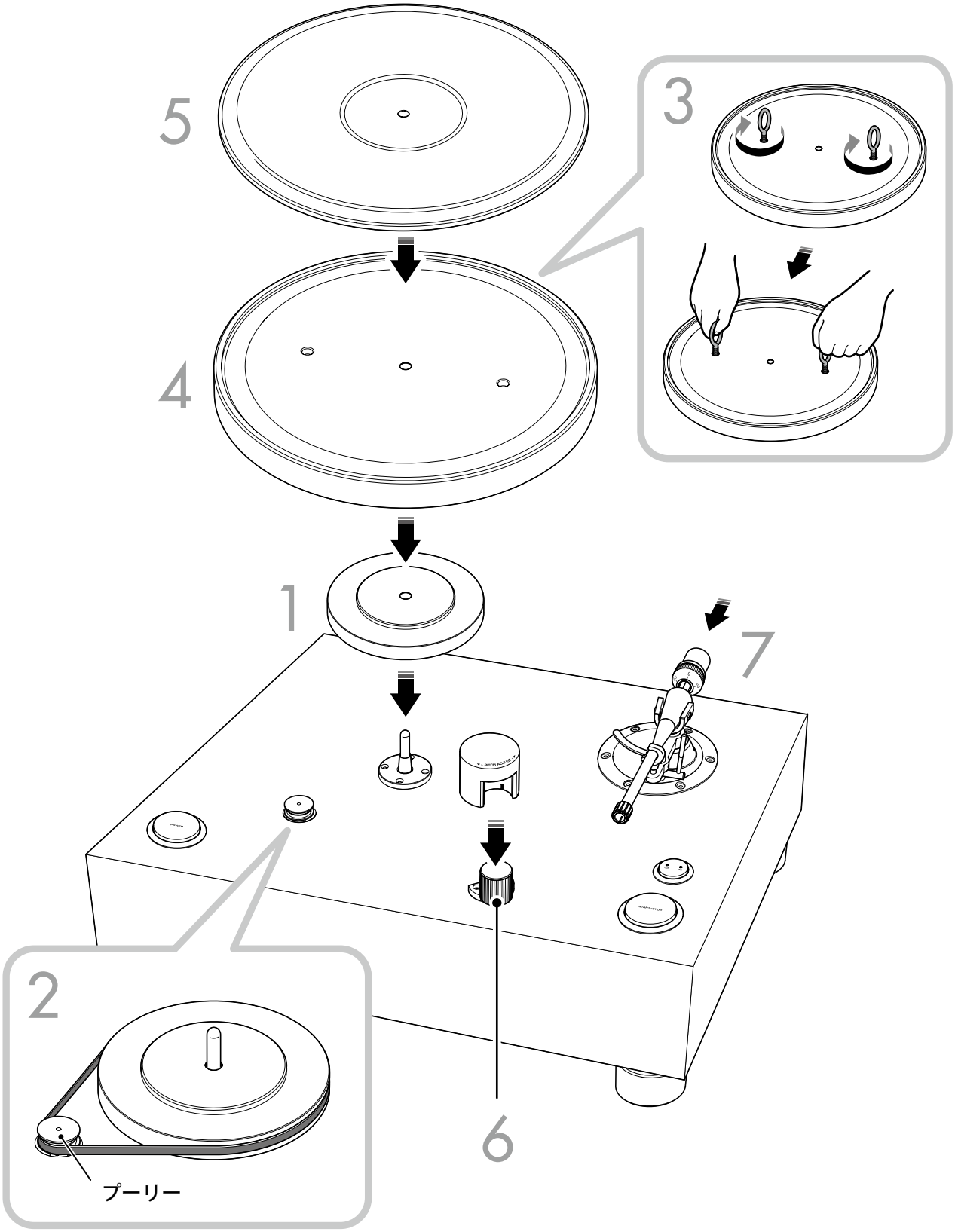
レコード演奏は振動の影響を受けやすいため、外部振動を受けない、水平な場所に設置してください。
また、スピーカーシステムから音圧や振動の影響を受けない位置まで離して設置してください。

⚠ 注意 【落下に注意】
本機を持ち上げたり、移動したりするときは、必ず 2 人以上で行ってください。

注意 【レッグは回さない】
レッグを回さないでください。レッグが破損する原因になります。

組み立てる

■ 本体の組み立て



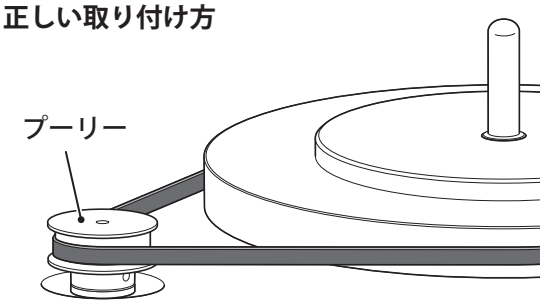
1 インナーターンテーブルをセンタースピンドルに差し込む。

注意 【センタースピンドルの破損に注意】
インナーターンテーブルをセンタースピンドルに強く当てないように差し込んでください。強く当てるとセンタースピンドルが破損する原因になります。

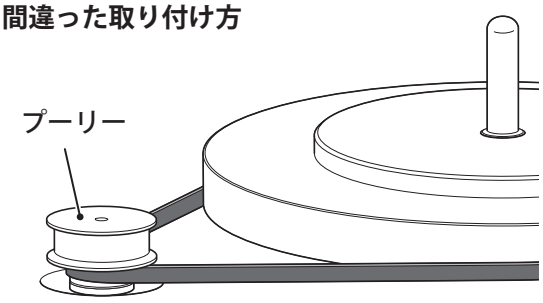
2 ベルトをインナーターンテーブルとプーリーに取り付ける。

ベルトがねじれないように注意して、プーリー上部の溝にベルトを掛けてください。
インナーターンテーブルを時計方向に回して、ベルトをなじませてください。

正しい取り付け方



間違った取り付け方



3 ターンテーブル取り付けハンドルをターンテーブルに取り付けて持ち上げる。

⚠ 注意 【落下に注意】
ターンテーブルを落とさないようにしてください。落とすと、けがをしたり、本機の損傷の原因になります。

4 ターンテーブルをセンタースピンドルに差し込む。

ターンテーブル取り付けハンドルをターンテーブルから外してください。

5 ターンテーブルシートをターンテーブルにのせる。

メモ

- お好みに応じて、ゴム製またはフェルト製のターンテーブルシートを使用してください。
- ゴム製のターンテーブルシートは中央にくぼみがある面が表です。

6 PITCH ADJUST（回転数微調整）ノブにノブカバーをつける。

7 カウンターウェイトをトーンアームに取り付ける。

カウンターウェイトの目盛がある側を手前にし、トーンアームの後部に差し込んでください。

メモ

お使いになるカートリッジの質量に合わせて、カウンターウェイト大または小を使用してください。それぞれのカウンターウェイトの適応カートリッジ質量については「主な仕様」（⇨ 26 ページ）をご覧ください。

■ カートリッジの取り付け

本製品にカートリッジは付属していません。市販のカートリッジを以下の手順に従ってヘッドシェルに取り付けてください。

メモ

カートリッジの取扱説明書もあわせてご覧ください。

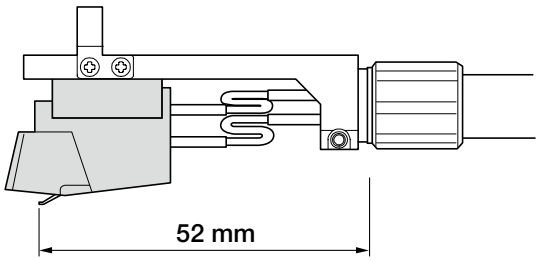
1 リード線をカートリッジに接続する。

リード線		端子
赤色	➡	R ＋（赤）
緑色	➡	R －（緑）
白色	➡	L ＋（白）
青色	➡	L －（青）

2 カートリッジをヘッドシェルに仮止めする。

3 カートリッジの位置を調整する。

針先が下図の位置になるように調整してください。



メモ

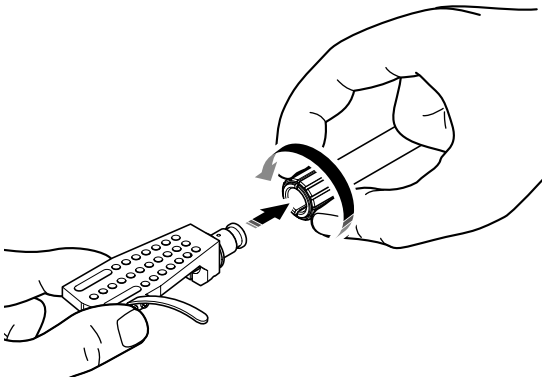
本機に搭載しているトーンアームのオーバーハングは－ 17mm です。

4 カートリッジを本締めする。

ヘッドシェルの側面とカートリッジが平行になっていることを確認して、ネジを締め付けてください。

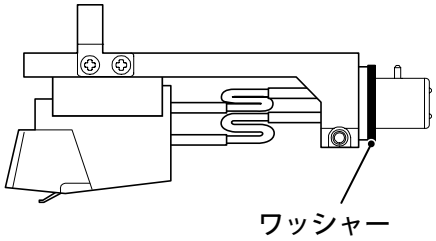
5 ヘッドシェルをトーンアームに取り付ける。

ヘッドシェルをトーンアームの先端に差し込み、ロックナットを回して固定してください。



メモ

お好みに応じて、ヘッドシェルにワッシャーを取り付けてください。



接続する

⚠ 注意 【電源コードは最後に接続】

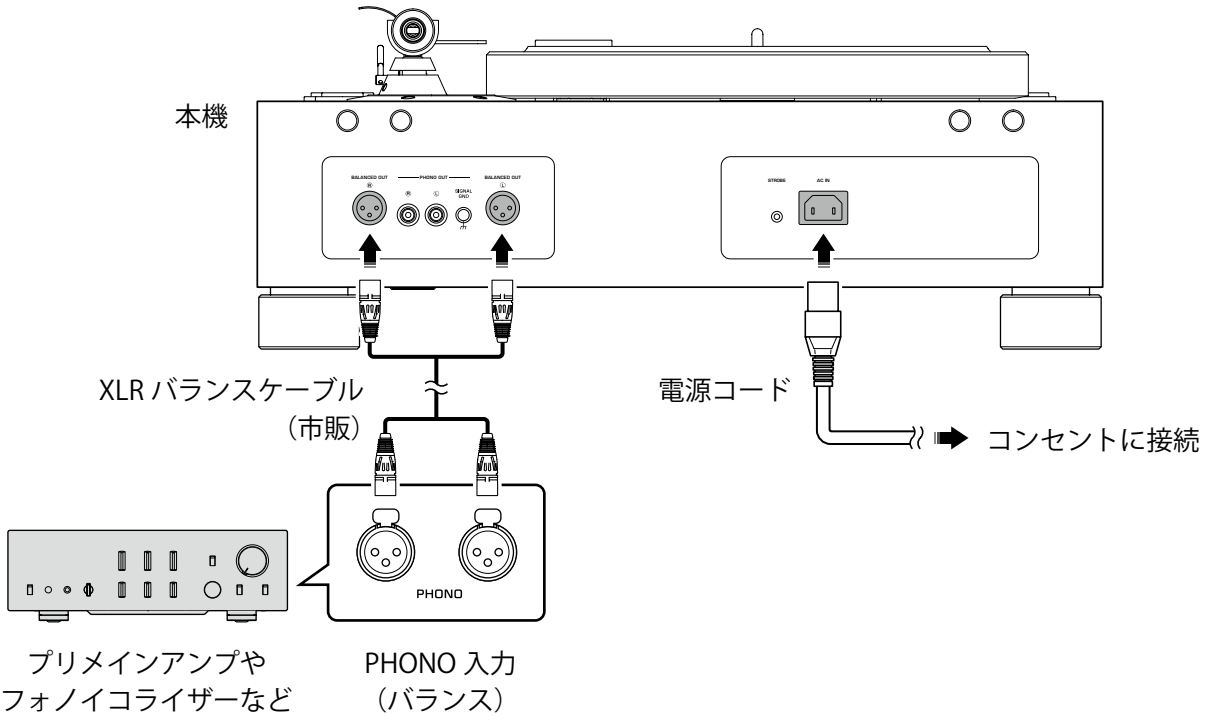
すべての接続が終了してから電源コードをコンセントに差し込んでください。

メモ

- バランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 付属の電源コードの▽マークは極性（本機のコールド側）を示しています。
- 接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

バランス接続

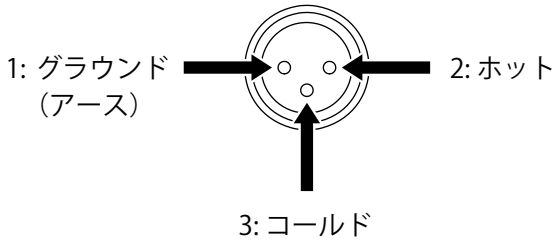
XLR バランスケーブルを使って、アンプを本機の BALANCED OUT 端子に接続します。



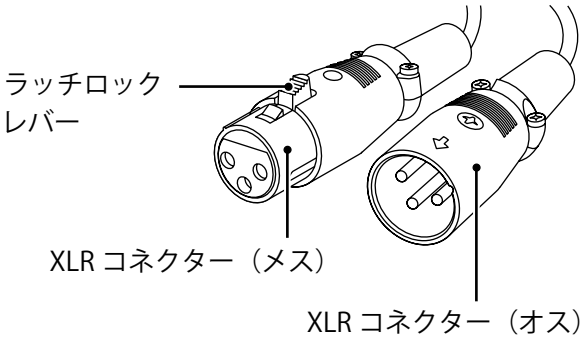
次ページにつづく ➡

メモ

- XLR コネクター式のバランス入力端子を備えたアンプを接続します。端子のピン配置は下図に示すとおりです。

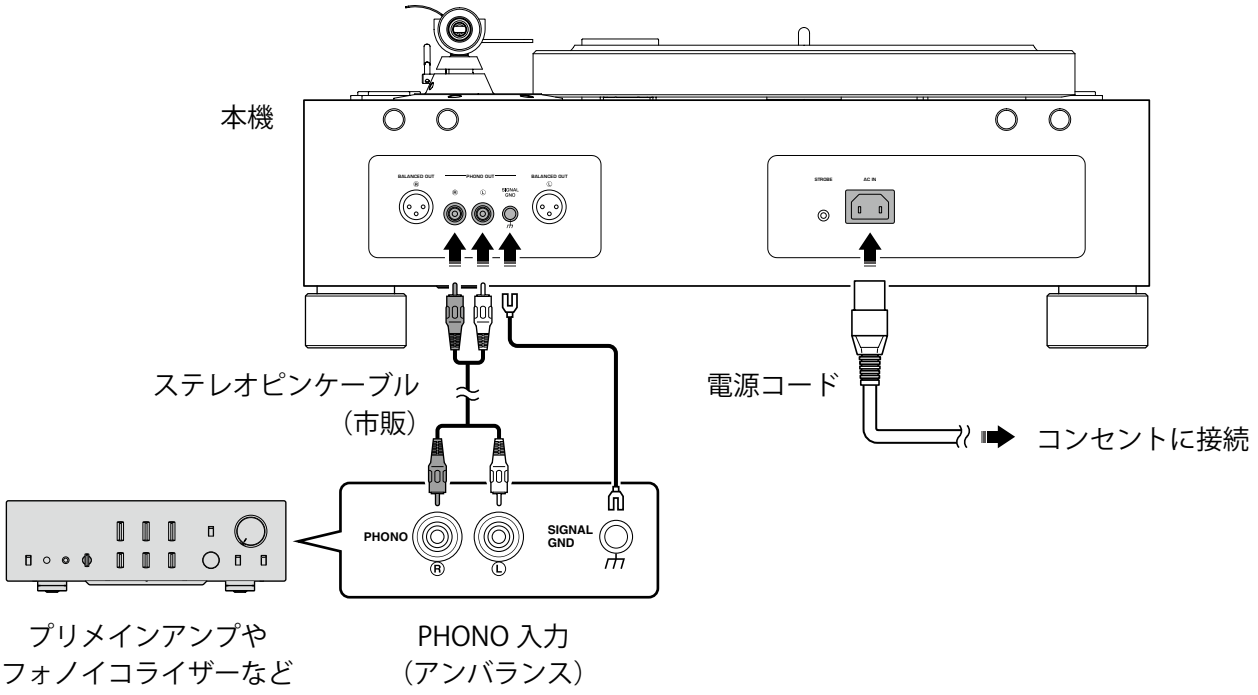


- 接続の際には必ずピンどうしを合わせ、XLR コネクター（メス）を差し込みます。接続を外すには、XLR コネクター（メス）のラッチロックレバーを押し下げながら引き抜きます。



アンバランス接続

ステレオピンケーブルを使って、アンプを本機の PHONO OUT 端子に接続します。



メモ

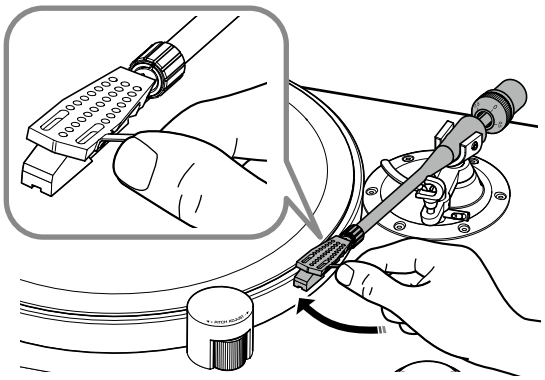
SIGNAL GND 端子は安全アースではありません。

調整する

■ 針圧の調整

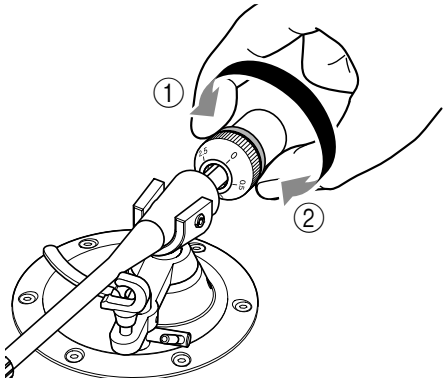
レコードに適正な針圧がかかるようにトーンアームを調整します。

1 **トーンアームをアームレストから降ろし、少し左にずらす。**



注意 【針先の破損に注意】
針が本機に当たらないように注意してください。

2 **カウンターウェイトを回して、トーンアームが水平になるように調整する。**



① **の方向**： カウンターウェイトは
トーンアーム前方に動く

② **の方向**： カウンターウェイトは
トーンアーム後方に動く

3 **トーンアームをアームレストに戻す。**

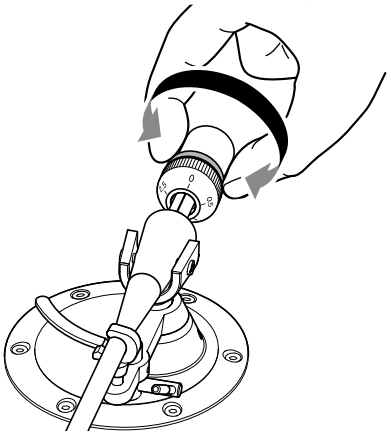
4 **カウンターリングを回して、目盛の「0」をトーンアーム後部の中心線に合わせる。**



メモ

カウンターリングを回す際、カウンターウェイトが回らないように指で押さえてください。

5 **カウンターウェイトを回して、カウンターリングの目盛をカートリッジ指定の針圧に合わせる。**



メモ

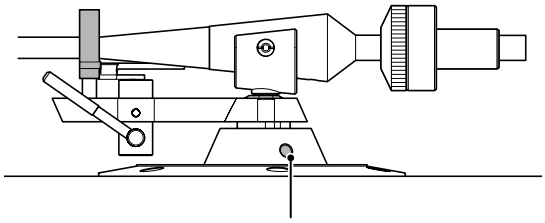
- カウンターウェイトを回すとカウンターリングも回ります。
- 正確な針圧を設定するためには、針圧計で測定してください。

■ トーンアームの高さ調整

針先をレコードに降ろしたときに、トーンアームとレコードが平行にならない場合は、以下の手順に従ってトーンアームの高さを調整してください。

1 **トーンアームをアームレストにのせる。**

2 **高さ調整ネジを六角レンチでゆるめる。**



高さ調整ネジ

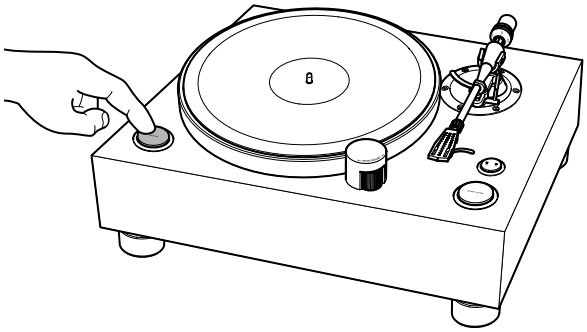
> **注意** 【トーンアームの落下に注意】
> トーンアームは高さ調整ネジで固定されています。ネジをゆるめる場合は、トーンアームが落下しないようトーンアーム全体を手でささえてください。

3 **トーンアームを上下に動かし、トーンアームとレコードが平行になるよう調整する。**

4 **高さ調整ネジを六角レンチで締めて固定する。**

電源をオンにする

本機上面の POWER（電源）ボタンを押して、本機の電源をオンにします。



演奏

演奏を開始する

⚠ 注意 【アンプの音量に注意】

アンプの音量を十分下げずにレコードを演奏すると、針先がレコードに触れたときに大きな音がする場合があります。聴覚障害、アンプやスピーカーの損傷の原因になりますので、必ずアンプの音量を下げてください。

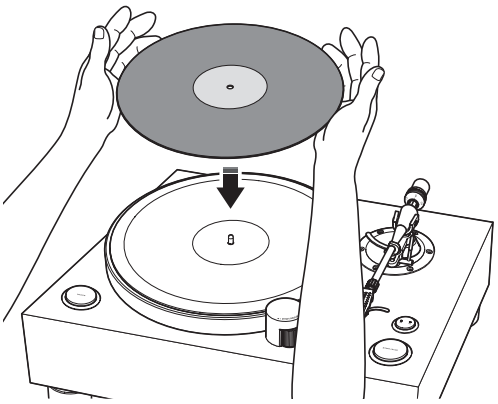
注意 【低温に注意】

本機は許容動作温度（10 °C ～ 35 °C）で使用してください。特に 10 °C を下回る低温環境下では、回転ムラが発生したり、レコードや針先が損傷したりするおそれがありますので使用しないでください。

本機は、回転時のトルク変動を抑え安定した再生を実現するため、トルクの非常に小さいモーターを使用しています。低温環境下で、センタースピンドルの軸に塗布されたグリースの粘度が高くなると、回転負荷が大きくなりモーターの性能限界を超えてしまいます。その場合、規定の回転数に達しなかったり、回転ムラが発生したりするおそれがあります。

1 **レコードをターンテーブルにのせる。**

EP 盤の場合は、EP アダプターを使用してください。



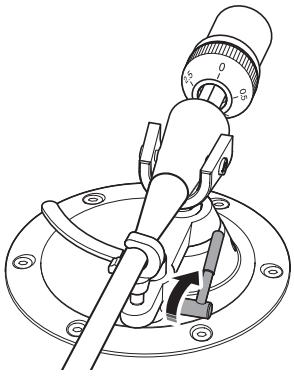
2 **回転数切替ボタンを押して、レコードにあった回転数を選択する。**

選択した回転数の回転数インジケーターが点灯します。

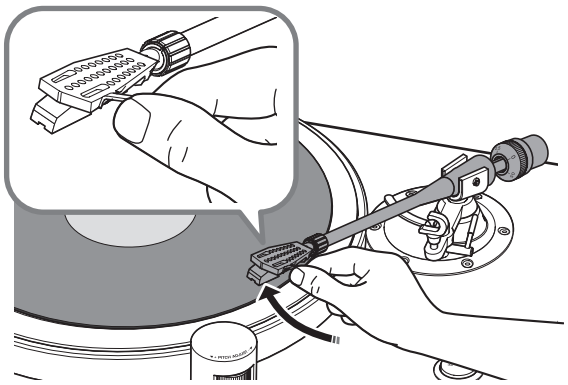
3 **START/STOP（回転 / 停止）ボタンを押す。**

ターンテーブルが回転します。
規定の回転数に達するまで回転数インジケーターは点滅します。

4 リフトレバーを上げる。

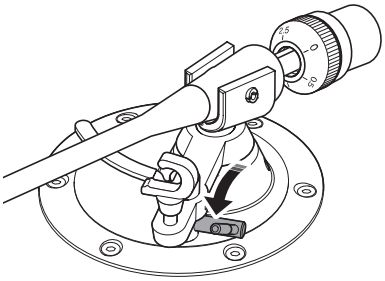


5 トーンアームをレコードの演奏位置まで移動する。



6 リフトレバーを下げる。

トーンアームが下降し、演奏が始まります。



■ 演奏を中断する

リフトレバーを上げるとトーンアームが上がり、演奏が中断します。

リフトレバーを下げると演奏を再開します。

■ 演奏を終了する

1 リフトレバーを上げる。

2 トーンアームをアームレストに戻す。

3 リフトレバーを下げる。

4 START/STOP（回転 / 停止）ボタンを押す。

ターンテーブルの回転が止まります。

メモ

レコードの演奏が終了してもトーンアームは自動で上がりません。

必要なとき

回転数を確認する

回転数を確認し、規定の回転数に調整する場合は、以下の手順に従ってください。

1 **ストロボライトを本機背面の STROBE 端子に接続する。**

2 **ストロボスコープをターンテーブルにのせる。**

3 **回転数切替ボタンを押して、回転数を選択する。**

4 **START/STOP（回転 / 停止）ボタンを押す。**

ターンテーブルが回転し、ストロボライトが点灯します。

5 **ストロボライトの光をストロボスコープに当てる。**

6 **PITCH ADJUST（回転数微調整）ノブで回転数を調整する。**

ストロボスコープの縞模様が停止して見えるように、PITCH ADJUST（回転数微調整）ノブを＋または－の方向に動かします。

メモ

- レコード演奏中に、PITCH ADJUST（回転数微調整）ノブで回転数を調整できます。
  調整ステップ、調整範囲については「主な仕様」（⇨ 26 ページ）をご覧ください。
- 本機の電源をオフにしても、調整した回転数は保持されます。
- 付属のストロボスコープとストロボライトは本機専用です。回転数を確認するときは、一緒に使用してください。

お手入れする

本体のお手入れ

柔らかい布で乾拭きしてください。ピアノブラック仕上げの場合は、ピアノ用クリーニングクロスのご使用をおすすめします。ベンジンやシンナーなどの化学薬品は、表面を傷めてしまうおそれがありますので使用しないでください。

レコード針のお手入れ

レコード針の針先は非常に繊細にできています。破損させないよう丁寧に扱ってください。針先にほこりなどが付着した場合は、針の根元から先端に向かって柔らかい穂先のブラシなどで取り除くか、市販の専用クリーナーを使用してください。

メモ

本体またはレコード針のお手入れをするときは、本機の電源をオフにしてください。

レコードのお手入れ

レコードに汚れがつくと、音飛びやノイズの原因となります。市販のレコードクリーナーなどで汚れを拭き取ってください。

ベルトを交換する

ベルトは、使用条件により劣化したり、切れたりすることがあります。その場合は、ベルトを交換してください。交換用のベルトについては、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」（ヤマハ修理ご相談センター）にお問い合わせください。

メモ

ベルトを交換するときは、本機と接続機器の電源をオフにし、本機の電源コードをコンセントから抜いてください。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機上面の POWER（電源）ボタンを押して電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

症状	原因	対策	参照ページ
POWER（電源）ボタンを押しても電源がオンにならない。	電源プラグが本機の AC IN 端子やコンセントから外れている、または確実に差し込まれていない。	電源プラグを本機の AC IN 端子とコンセントに確実に差し込んでください。	15
ターンテーブルが回転しない。	ベルトがインナーターンテーブルとプーリーに正しくかかっていない、またはベルトが外れている。	ベルトをインナーターンテーブルとプーリーに正しくかけてください。	13
	POWER（電源）ボタンがオンになっていない。	POWER（電源）ボタンをオンにしてください。	19
音が出ない。	ヘッドシェルがトーンアームに正しく取り付けられていない。	ヘッドシェルをトーンアームに正しく取り付けてください。	14
	シェルリード線とカートリッジの接続が正しくない。	シェルリード線とカートリッジを正しく接続してください。	14
	本機とアンプの接続が正しくない。	本機とアンプを正しく接続してください。	15、16
	アンプのミュート（消音）がオンになっている。	アンプのミュート（消音）をオフにしてください。	—
音量が小さい、または大きい。	アンプまたはフォノイコライザーのカートリッジ設定が正しくない。	アンプまたはフォノイコライザーのカートリッジ設定を使用するカートリッジの種類（MM または MC）に合わせてください。	—
音の左右のバランスが悪い。	本機が傾いている。	本機を水平な場所に設置してください。	—
演奏スピードが正しくない。	回転数が正しくない。	回転数切替ボタンで回転数を正しく選択してください。また、本機は SP レコード（78 回転）の再生には対応していません。	20

症状	原因	対策	参照ページ
ハム音が出る。	本機とアンプの接続が正しくない。	本機とアンプを正しく接続してください。	15、16
	ヘッドシェルがトーンアームにしっかり固定されていない。	ヘッドシェルをロックナットでトーンアームにしっかり固定してください。	14
	カートリッジがヘッドシェルに正しく固定されていない。	カートリッジをヘッドシェルに正しく固定してください。	14
音とびする。 **ノイズが生じる。** **音が歪む。**	針圧が正しく調整されていない。	針圧を正しく調整してください。	17
	レコードに傷や反りがある。	傷や反りのあるレコードを使用しないでください。	—
	レコードが汚れている。	レコードの汚れを市販のクリーナーなどで拭き取ってください。	22
	レコードが静電気を帯びている。	静電気除去ブラシで静電気を除去してください。	—
	針先が汚れている。	針先の汚れを取ってください。	22
	針先が摩耗している。	針を交換してください。	—
	振動を受ける場所に本機を設置している。	外部振動を受けない、水平な場所に設置してください。	—
ハウリングが生じる。	本機がスピーカーに近すぎる。	本機とスピーカーを離して設置してください。	—
	再生音が大きすぎる。	アンプの音量を調整してください。	—

付録

主な仕様

本機の主な仕様です。

ターンテーブル部

フォノモーター部
- 駆動方式 ..... ベルトドライブ
- モーター ..... ACシンクロナスモーター
- モーター駆動 ..... 水晶サイン波

回転数 ..... 33 1/3rpm、45rpm

回転数偏差 ..... ±0.1%

回転数調整　内蔵水晶ストロボ/付属ストロボライト
- 調整ステップ 0.1%
- 調整範囲 ..... ±1.5%

ワウ・フラッター ..... 0.04%以下（W.R.M.S.)

ターンテーブル ..... アルミ
直径350mm

インナーターンテーブル ..... 真鍮
直径143mm

トーンアーム部

形式
.... スタティックバランスストレートアーム

実効アーム長 223mm

オーバーハング ..... −17mm

適用カートリッジ質量（ヘッドシェル含む）
..... 16〜23.5g
（カウンターウェイト小）
.....23〜34g
（カウンターウェイト大）

付属ヘッドシェル質量 14g
（ワイヤー含む）

オーディオ部

出力端子
- アナログ音声 ..... PHONO OUT(RCA)×1
  PHONO OUT(XLR)×1

総合

電源電圧 ..... AC 100V 50/60Hz

消費電力
- 再生時 15W
- 停止時 0.4W

質量 26.8kg

寸法（幅×高さ×奥行き）
..... 546×223×411mm
（レッグ部、突起部含む）

許容動作温度 .....10〜35℃

- 掲載数値は、20℃環境下での測定数値です。
- 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル(全国共通) **0570-011-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

https://jp.yamaha.com/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通) **0570-012-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
JMT京浜 E棟 A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

Yamaha Global Site
https://www.yamaha.com/

Yamaha Downloads
https://download.yamaha.com/

Manual Development Group
© 2019 Yamaha Corporation
2021年10月発行
IPOD-D0

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

AV21-0105